



ルカーズという社名は、手塚治虫先生の「海のトリトン」の中に登場する白イルカ「ルカー」に由来しています。ルカーが、大海原を冒険するトリトン少年を優しく、時には厳しく接し、少年の成長を見守りながら、少年を未来へ導くお話です。

お客様の
安心な未来を築く
パートナーとして…

日本興亜損害保険(株)代理店、
NKS Jひまわり生命保険(株)代理店

「海賊」と「コーヒー」の、 保険とは切っても切れない 関係とは？

1 もし『海賊』に盗られたら…。 そこから発展してきた「損害保険」の仕組み

「保険」という考え方のルーツは、紀元前2250年前のパピロニアで、旅商人たちがキャラバン隊の荷物を“相互扶助”で融通し合ったところから、とされています。

その後、紀元前300年頃の古代ギリシャでは、船でアフリカの穀物とギリシャのオリーブなどを交換する海上輸送が行われていましたが、船主や荷主のアタマを悩ませていたモノが2つありました。それは「嵐」と「海賊」です。

とくに、海賊はどこからともなく現れ、大事な荷物を根こそぎ盗みとってってしまう悪人集団です。そこで「もし、盗られたら、損害は荷主と船主双方で負担しようね」といった、リスク負担を分散する仕組みを創ったのですが、これが「海上保険」の起源だと言われています。



さらに、14世紀の中世ヨーロッパでも、イタリアを中心に富裕層のために中東やアジアから絹織物や香辛料（主にコショウ）を運ぶ海上貿易が行われていたのですが、それらの高額商品は、いつも「海賊」の標的になっていました。そのため、多くの船主や荷主が集まって「もし、誰かの積み荷が被害にあったら、みんなで補償し合おう！」という、“補償”という考え方を持つグループが出来はじめました。それが、「損害保険」近代化の第一歩目と言われているのです。



2 「保険の話は、コーヒーでも飲みながら」 というのは歴史的な流れ？

では、保険の組織的な仕組みはどう発展してきたのでしょうか？ そのひとつの役割を担ってきたのが、実は「コーヒー」なのです。

1688年に、ロンドンのテムズ川河畔にエドワード・ロイドという人が『ロイズ・コーヒー店』を開業しました。このお店には、船員や貿易商、船主、荷主などがたむろし、日々、コーヒーを一杯飲んで、情報を交換し、様々なニュースが飛び交っていました。そこで、ロイド氏はペンとメモを常備し、港湾の動向や海難事故、海賊など海上輸送に関するニュースをまとめた新聞“ロイズ・リスト”まで作り始めたのです。

「じゃあ、コーヒーでも飲みながら」「今度の航海は？」「大丈夫かい？」…。

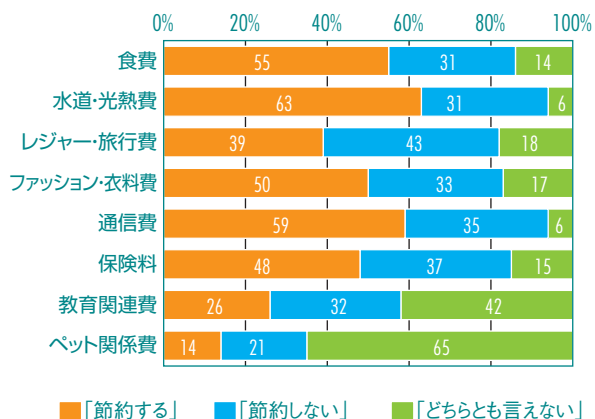
そのうちに、荷物の補償をするという保険引き受け業者が店内に生まれたり、船主たちが保険の取引を行ったりする場になり、ロイズ・コーヒー店は「保険取引」のマーケットとしての役割を果たすようになっていったのです。

ロイズは、その後も引受業者（アンダーライター）や仲介人（ブローカー）を会員とする「保険組合」として大発展を遂げ、同時に、保険を取引する「市場」の役割を担っています。ロイズの歴史には、豪華客船「タイタニック号」の保険を引き受け、世界最大の海難事故と言われるタイタニック号沈没の際にも「ちゃんと保険金全額が支払われた」と刻まれています。



DATA FOCUS

消費税率引上げで「節約するもの・しないもの」は？



消費税率が引き上げられた際に、「節約するもの・しないもの」は？

2014年4月には消費税率引上げ（5%→8%）が予定されていますが、「消費税率が引き上げられた際に、節約するもの・しないもの」という調査（8000人対象）を、大手食品商社の三菱食品が行っています。

その結果では、節約するものの上位には「水道・光熱費」「衣服費」などが上がっていますが、注目点は「通信費」を挙げた人が59%に達していることです。これは、スマホやケータイなどにかかる経費が、財布の悩みになっていることをうかがわせています。その逆に、「節約を考えない」という費用では「レジャー・旅行費」がトップ。楽しみの部分は縮小しない、というライフスタイルが現れています。また、これまでは節約対象の常連だった保険料は「節約しない派」も意外と多く、すでに必要最小限に近づいていること示している、と見えそうです。

チョット訪ねてみました日記

清新な空気が流れる中で、**「花いおり」**
旬の懐石料理を楽しむ

（横浜市港北区綱島西）

店内に一歩足を踏み入ると、あちこちに季節を感じる生花が飾られ、香りとともに落ち着いた雰囲気を感じ出しています。

綱島街道から住宅街へ少し入ったところにある「花いおり」さんは、新鮮なお魚のお造りや、手を掛けて創られた野菜の炊き合わせなど、素材にも、調理法にもこだわりが感じられる懐石料理・日本料理を味わえるお店です。総支配人の廣井みどりさんは「板場も含め、皆、「想い」を持って仕事をすることを心掛けています」と話されます。

この夏からは、廣井さんのご主人がこよなく愛した天ぷらをメインに据えた「天麩羅懐石」がメニューに加わり、お客様に好評を博しているそうです。一階の高座椅子席・テーブル席の他、二階には個室もあり、誕生日会や還暦の祝い、会社の接待などに利用されています。

「私自身が、日々、お客様と直接お話をさせていただくことで、新鮮な空気をいただいています。これからも、旬を大切に料理を提供させていただき、お客様には非日常の空間の中で、食と会話を楽しんで行ってほしいと思っています」（廣井みどりさん）と話していただきました。



また、「花いおり」を経営する「鱸魚のぶ」のもう一つの注目事業は、企業向けの宅配弁当サービスを展開する『ランチ亭』です。こちらも「日替り弁当」は、メインだけでなく副菜も手が込んでいます。その他の選べるお弁当が10種類あって飽きません。なによりボリュームもあり、満足度は高いですよ」というのが利用者の声です。

【花いおり】 <http://www.hanaiori.jp/> TEL:045-542-2003
【ランチ亭】 <http://www.lunchtei.jp/> TEL:045-542-2001



Nissei & Rukas Letter

日生自動車工業の小山です。

今回は、ルカーズのマークにもなっている「イルカ」の不思議をご紹介したいと思います。題して『イルカだ〜いすき いるか〜ず?!』です。

イルカが人間のように、ぐうぐうと眠っているところをイメージできますか？ 眠って脳や身体を休めることですよね。そうすると、イルカの脳ってどうなっているのでしょうか？

イルカは常に泳ぎ続けていますが、眠っていないわけではありません。イルカの睡眠は、左右の脳を交互に休ませるという人間とは違うすごい能力があるのです！ だから我々から見れば眠っていないように見えるかもしれません。

そして、イルカが眠っているときには特徴があります。

それは、片目を閉じ、ある一定方向に回転しながら眠る、というものです。右脳が眠っているときは左目、左脳が眠っているときは右目を閉じます。

さらに、北半球のイルカは反時計回り、南半球のイルカは時計回りに回転します。ただし、飼育されているイルカは、安全だということを知っているの



か、水中でじっとしたり浮いたりして眠ることもあるようです。

ルカーズの『イルカの不思議』、また次回もお楽しみに!!

お問い合わせは

—お客様に真心こめて。保険の総合サービス—
有限会社 ルカーズ



0800-800-9507

<http://www.rukas.info/>



有限会社 ルカーズ

日本興亜損害保険㈱代理店、NKSJひまわり生命保険㈱代理店

〒224-0054 神奈川県横浜市都筑区佐江戸町864

TEL:045-507-9507 FAX:045-507-9506 HP:<http://www.rukas.info/> 0800-800-9507



指定整備事業 関東陸運局指定 関東指第2-1266号
有限会社 日生自動車工業



車検・定期点検・一般修理からカー用品販売、中古車・新車販売、自動車保険代理店業務まで…
〒224-0054 神奈川県横浜市都筑区佐江戸町864
TEL:045-933-9091 FAX:045-931-0033 HP:<http://www.nissei.info/>